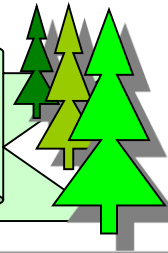


街路樹



体育科の授業改善の視点と実践例紹介

「相談部」～教育相談部より～

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善について、中央教育審議会の答申(平成28年12月2日)では対話的な学びについて以下のように授業改善の視点が示されています。

対話的な学びについて

「子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める」

今回は対話的な学びについて実際の授業(ボール運動系の学習)の場面で考えていきます。

対戦相手に勝つために個々の児童生徒が作戦を選択し交流を行います。一人で考えていた時には思いつかなかった作戦も、交流をすることで新たに気づいたり、作戦の内容が深まったりします。また、教師との対話で新たな視点が得られたりすることもあります。学びの質が深まっていくことに対話的な学びのよさがあります。しかし、毎時間このような学習を展開することは教科の特性上、難しいことです。意図的・計画的に対話する場面を設定すること(単元全体の見通し)が大切になります。

コロナ禍のため、対話的な活動に工夫が必要です。「対話の際はマスクをつけること」や「ソーシャルディスタンスを保つこと」などを配慮しなければなりません。2学期の学校訪問では、掲示用黒板(ミニ黒板)を使って作戦を練る授業を参観する機会がありました。話し合うための場所をシールで示し、児童はその上で、密にならないように作戦を練っていました。声の大きさにも留意しながら、十分な話し合い活動が行われていました。

「～だからできない」や「～だからしない」と消極的に考えがちになりますが、「このコロナ禍だからこそできること」があると積極的に考え、子どもの学びを促していけるような学習活動を計画していきましょう。

教育相談部に寄せられる数多くの相談内容の中には、子どもがコミュニケーションの苦手さのために、対人関係や集団活動がスムーズに行えないという相談があります。友だちとトラブルになったり、集団行動ができなかったりするために、学校で注意を受けることが多くなってしまいう子どもです。そのような子どもには本人の特性に配慮した指導が必要になります。

総合教育センターでは、相談部で関わっている4年生以上の希望者を対象に、「人とかかわる時のコツ」を学ぶ場としてソーシャルスキルトレーニング(以下SSTと呼ぶ)を実施しています。SSTでは「自分の得意・不得意を知ろう」「話の聞き方」「あったかことば・チクチクことば」「上手な仲間の入り方・頼み方」「いろいろな気持ちを知ろう」「イライラコントロール術」等を学んでいきます。スクールカウンセラーの進行のもと、ゲームやロールプレイを通して学んでいます。

SSTの学習内容は特別な配慮を要する子どもだけではなく、学級のどの子どもにとっても大切な学びです。特別活動や道徳科等でSSTを実践している学校もあると思います。子どもがSSTで学んだ「好ましい行動」をしようとしたその時、教師が「肯定的な注目(ほめる・認める・笑顔を返す)」を与えると子どもの好ましい行動はどんどん増えていきます。そうした行動を学級通信や学級懇談会で保護者に紹介することによって、家庭生活の場でもほめてもらえるようになり、よい循環が生まれます。学校現場でもSSTの実践や保護者との連携の充実を図ってみたいはいかがでしょうか。

(総合教育センターでのSSTの詳細については、子ども健康教育相談「22-3709」へお問い合わせください。)



「教育研究発表会」より

全国的に急速に感染が拡大している新型コロナウイルスへの感染防止のため、1月7日開催を予定していた教育研究発表会は、残念ながら開催中止となりました。そこで今回は、ご講演を依頼しておりました国士舘大学教授 澤井陽介先生の最新著書「図解 授業づくりの設計図」(東洋館出版社・2020年)をご紹介します。

現在各学校では、改訂された学習指導要領を受け、学校教育の改善を進めているところかと思えます。「カリキュラム・マネジメント」「資質・能力」「見方・考え方」「主体的・対話的で深い学び」「学習評価」「単元構想」等々、多くのキーワードを考えていくと「授業はどうつくればいいのか」「どう評価すればいいのか」等、自問自答し、これまでの実践と改めて向き合う場面も少なくありません。そのような時、本書が大変参考になります。本書では、澤井先生が、これまでの数々の実践をもとに、55の教育課題について構造的に整理しながら説明しています。使用されている図版は、ダウンロードもできるので、自身の授業改善だけでなく、校内研修でも有効に活用できるものです。

今回、講演は中止となりましたが、澤井先生には快く講演資料をご提供いただき、少しでも先生方の力に、と心を寄せてくださいました。コロナ禍で多くの制限がある中ですが、こういう状況であっても我々教師の学びを止めることがないように、今年も充実した実践を積み重ねていきたいものです。

なお、同日発表を予定しておりました調査研究委員からの資料と授業動画等も閲覧可能となっておりますので、澤井先生の講義資料と併せて是非ともご活用ください。(詳しくは、令和3年1月8日付け2教せ号外をご確認ください。)

